

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)						担当	長谷川 純						
学年／コース		教科[中学]もしくは科目 [高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年		国語		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		✔	課題発見	✔	戦略的学習力	✔	言語スキル	✔	協働性	✔	データサイエンス	✔	クリエイティビティ	未来志向
4時間／週(2時間ずつ)		光村図書/セレクト漢字検定/解いて覚える中学の文法/国語便覧(浜島書店)		✔	可能性発見	✔	自己修正	✔	双方向コミュニケーション	✔	ソーシャルリティ	✔	批判的思考	✔	論理的表現力	他者尊重
				✔	パーソナライズな学び	✔	レジリエンス	✔	感情のコントロール	✔	教科と社会を紐づける力	✔	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・見えないだけ ・情報を整理して伝えよう ・アイスブランク ・枕草子 ・文法(言葉の単位、品詞)	・自分の思いを伝えるための表現技法を学び、魅力的な言葉を考える ・情報の整理の仕方・思考の視覚化を学び、実践する ・心情を理解するための表現を知る ・古典に触れ、歴史的仮名遣いを覚える		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
				作者の意図や物語の世界の視点を持つことができる ・単元テスト ・課題		クラス外や学校外からの視点を持つて、新たな問いを見つけ出せる ・課題、クリエイション		学びで得たものを実社会につなげた具体的なアイデアとして確立し、それを公の場で発表できる ・アウトプット審査 ・主張文、小論文、レポート等								
2 学期	・文法(用言) ・仁和寺にある法師扇の的 ・漢詩の風景 ・字のないはがき ・聞き上手になろう表現を工夫して書く表現の効果を考えよう ・小論文	・国文法の用言の学習 ・徒然草・平家物語に触れ、古典の表現や当時の文化を覚える ・漢詩に触れ、漢文の基礎知識を学ぶ ・随筆(エッセイ)を読み、筆者の気持ちを考える ・学校外の人へメールや手紙を送り、適切な言語表現を学ぶ ・自分の学びを小論文として書く		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
				国語便覧やその他資料を用いることができる ・単元テスト ・課題		自分の学びを他者と共有し、相違点や共通点に気が付ける 課題を他者と共有しながら進めることができる ・課題、クリエイション		外部コンテスト等へ応募 漢字検定などの外部機関への挑戦 ・お〜いお茶俳句大賞 ・漢字検定等								
3 学期	・モアイは語る ・文法(助詞・助動詞) ・走れメロス	・論説文を読み、読者に自分の意見を伝えるための効果的な構成を学ぶ ・国文法の助詞・助動詞の学習 ・古典的名著『走れメロス』を読み、人間の本性を考える		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
				物語・論説文の構成を理解する 必要な知識をみにつけることができる ・単元テスト ・課題		課題を通して文章に込められた問いを理解し、それに取り組むことができる ・課題、クリエイション		自分が発見した学びを公の場で発表することができる ・アウトプット審査								
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●授業内テスト(30%) ●コアチャレ(20%) ★なお、欠席の場合の再テストは実施しない。(コアチャレ、単元テスト等)公欠、出席停止の場合は取り組んだ課題の到達点を元に見込み点で評価する。		●アウトプット審査(30%) ●提出物・授業態度(20%)		<教材> 教科書・国語便覧・プリント・iPad <ICT> Keynote・iMovie・Pages・ロイロ・Canva <備考> 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する							
数字と言葉にはどんな違いがあるのか		日常生活の疑問を元に仮説を立て、その仮説を数値を持って立証するレポートを作成する。											思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		Googleクラスルーム・keynote・教科サイト		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	吉田 茂						
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年			社会		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation								
					目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数			使用教科書		☑	課題発見	☑	戦略的学習力	☑	言語スキル	☑	協働性	☑	データサイエンス	☑	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週			オリジナルテキスト 地図帳(帝国書院) 歴史教科書(日本文教出版)		☑	可能性発見	☑	自己修正	☑	双方向コミュニケーション	☑	ソーシャリティ	☑	批判的思考	☑	論理的表現力	他者尊重
					☑	パーソナライズな学び	☑	レジリエンス	☑	感情のコントロール	☑	教科と社会を紐づける力	☑	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・現代の社会問題 ・現代政治の特色		・現代の社会問題について興味関心を持てるようになる ・地方自治、三権分立、日本国憲法、国際連合について調べ学習・プレゼンをすることで、学習したことを自分ごと化して考えることができるようになる		調 点 ・社会的視点 ・世界的視点 ・地域的視点 ・他者視点 ・個人的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
						現代社会の出来事・仕組みと学習したことを結びつけ、学びを深めることができる。		学習した内容と現実社会を相関させ、新たな疑問点を言語化することができる。									
A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表													
画像データや実物教材などから、教材などで学習したことを結び付けて、学びを深めることができる。		学習した内容を自分の言葉としてアウトプットし、疑問など新たな学びにつなげることができる。		学習した内容を学外を対象に発信し、新たな学びにつなげることができる。													
A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする													
教科書を中心とした知識が身につく、公民や歴史に関する基本的な知識を得、情報がわかる		学習した内容から、疑問点や不明な点を言語化し、さらに学びを深めることができる。		学習した内容をまとめてプレゼンテーションし、相互評価できる。													
2 学期	・戦後史 ・戦前～大正		・学習範囲:2000年代以降、1990年代、1980年代、1970年代と公民分野、1960年代、1950年代～戦後直後と公民分野、15年戦争、政党政治の展開3つの戦争 ・学習範囲に取り組むことで、学習理解をし、それぞれのセクションにおいて提示した本質的な問について、自分なりの考えを持つことができる														
3 学期	・明治時代		・学習範囲:大正・昭和初期の文化、明治維新、明治の文化 ・学習範囲に取り組むことで、学習理解をし、それぞれのセクションにおいて提示した本質的な問について、自分なりの考えを持つことができる														
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●Googleクラスルームの課題 ●ノートチェック ●プレゼンによる評価		●Googleクラスルームの課題 ●ICTアプリによる創作学習 ●プレゼンによる評価 ●その他創作活動学習		<教材> 日本教育出版「歴史」 帝国書院「地図帳」 新渡戸文化オリジナルテキスト「社会」<ICT> ipad Googleクラスルーム 他、ICTアプリ <備考> 実物教材							
・その時代は今とどうつながっているのか？ ・大正時代とはどんな時代だったのか？ ・あなたが思う一番大事な人権問題とは？ ・あなたが見つけた「パーソナライズポリティカル」とは？			授業の基本的な進め方 ①グループで調べ学習→プレゼン ②補填学習 ③単元まとめ学習			思考力・判断力・表現力											
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>			・パドレット(進捗状況及び、調べ学習の成果) ・GoogleClassRoom(調べ学習の評価及び課題提出の成果) ・ノートの記録		主体的に学習に取り組む態度		・基礎学習など認知分野30% ・表現、考察など非認知分野30% ・アウトプットテスト40% で評価 →アウトプットテスト欠席者は要相談(条件による)										

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	濱本,西村					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年		数学		自分をコントロールする Self-Control		他者をつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
5時間／週		これからの数学 2(数研出版)		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・式の計算 ・連立方程式	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・式の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。											
2 学期	・1次関数 ・図形の合同 ・三角形と四角形 ・図形の相似(中8)	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・式やグラフの性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・図形の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。									
3 学期	・確率 ・データの分析	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・確率やデータの性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。		手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。							
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)		●創作活動(30%) -協働や相互評価 -発表または共有、成果物 -活動の貢献度 ●提出物(10%) ●コアチャレ提出(10%)		【教材】 ・OKRAおよびQubena ・演習用プリント 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど ・NHK for School「マスと！」 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する							
・連立方程式は実生活でどのように用いるのか ・場面によって適したデータの分析とは何か		・連立方程式を使う場面に対して、自分の考えを動画でまとめることができる ・データの分析をNumbersで行い、考察内容を発表することができる														
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定確認) ・Padlet(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)										担当	蓮沼	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年		理科		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication			新しい価値を創造する Creation						
				目標設定	選択		対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機					
時間数		使用教科書		☑	課題発見	☑	戦略的学習力	☑	言語スキル	☑	協働性	☑	データサイエンス	☑	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週		啓林館 未来へ広がるサイエンス		☑	可能性発見	☑	自己修正	☑	双方向コミュニケーション	☑	ソーシャルティ	☑	批判的思考	☑	論理的表現力	他者尊重
				☑	パーソナライズな学び	☑	レジリエンス	☑	感情のコントロール	☑	教科と社会を紐づける力	☑	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元	単元の概要			学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・身のまわりの物質	・物質の性質を利用して、物質を区別する。 ・気体の性質を利用して、気体を区別する。 ・水溶液の性質を利用して、物質を区別する。 ・物質の状態を変化して、物質を区別する。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン					
					実社会での状態変化や密度について学ぶことができる。			実社会に用いられている化学分野の現象について疑問をもち、検証する。			身近な化学を活用した、日常生活を便利にするためのアイデアを提案できる。					
2 学期	・化学変化と原子・分子 ・化学変化とイオン	・物質の成り立ち。物質の表し方。 ・さまざまな化学変化。 ・化学変化と物質の質量。 ・水溶液とイオン。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表					
					日常の事象から物質との関連を発見し、課題を解決することができる。			対話により新たな問いを見出し、解決に向けて探求することができる。			自らの問いを学外に向けて発表・発信することができる。					
3 学期	・化学変化とイオン ・地球の大気と天気の変化	・電池とイオン。 ・酸・アルカリと塩。 ・地球をとり巻く大気のように。 ・大気中の水の変化。 ・天気の変化と大気の動き。 ・大気の動きと日本の四季。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする					
					物質についての本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。また正しい実験技能を身に着けることができる。			実験手法や操作手順等、他者と意見が異なる際には相互理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。			身のまわりの物質に関連した研究について、学習成果をプレゼンテーションおよび相互評価することができる。					
				関わり Engage				探究 Investigate				行動 Act				
				評価方法										学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●アウトプット型テスト(研究活動・資料作成・プレゼンテーション)			●創作活動 ●ロイロノートによる課題提出 ●授業プリントの提出			【教材】 教科書・問題集・授業プリント					
・“自分のため”であり誰かのための学びとは何か? ・責任(持続可能な社会に向けて)をもって、理科を活用することはできるか? ・科学(化学)と自分のつながりを説明せよ。		・単元の内容について探求課題を立て、筋道を立てて研究して、成果を化学的に発表する。									【ICT】 クラスルーム・ロイロノート・Keynote ほか					
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・授業プリント(手書き記入) ・ロイロノートによる画像、動画、スライド、振り返り		思考力・判断力・表現力								【備考】				
				主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年		英語		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
5時間／週		New Crown II		☒	可能性発見	☐	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☐	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
				☐	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・New Crown II Lesson 1～Lesson 3 (接続詞、to不定詞、there is / are)	・教科書をベースに文法を学び、テーマについて自分なりの表現に落とし込む 大きなテーマ ・Lesson 1 好きな本 ・Lesson 2 私の夢		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
							素材や実際の交流を通じて、海外と日本の違いに気づき、問いが生まれる。		自分達の作品がどう社会に繋がるのかイメージを持つことができる。							
2 学期	・New Crown II Lesson 4～Lesson 6 (第4文型、比較級)	・教科書をベースに文法を学び、テーマについて自分なりの表現に落とし込む 大きなテーマ ・Lesson 4 日本の伝統文化 ・Lesson 5 観光		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					・ALTのスマールトークを聞き、異文化についての知見を深め、内容を理解する。 ・映画やニュースの素材を使って、聞いたり、読んだりして内容を理解することができる。		友達との対話から英文の解釈を深めたり疑問を持つたりする。		英語のスピーチコンテストに応募する(希望者)							
3 学期	・New Crown II Lesson 7 (現在完了形)	・教科書をベースに文法を学び、テーマについて自分なりの表現に落とし込む 大きなテーマ ・Lesson 7 伝統文化		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本的な文法事項を教科書から学ぶ。音読を通して音声と文字のつながりを学ぶ。ペアワークを通して文法事項の定着を図る。		・振り返りを実施し、どのような復習を行えばよいか計画を立てる ・教科書の内容に関するBig Questionに自分なりの答えを持つ。		テーマを選び、それについての作品を作る。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト ●文法確認テスト ●スピーチ		"●プレゼンテーション ●グループワーク ●自己評価 ●クワイエーション活動 ●Qubena or プリント取り組み率"		【教材】 ・教科書 【ICT】 ・教科サイト ・ロイロノート ・クイズレット ・Qbena 【備考】							
・コミュニケーションを深めていくためにはどんな態度・スキルが必要か。 ・自分の得たい力を得るためにはどのように方策を立てたらいいだろうか。		・スピーチを作成し動画を作成する														
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head				主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	川村祥子	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー									
中学2年		音楽		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation					
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機			
1時間／週		教育芸術社:中学生の音楽2・3上		✔ 課題発見	✔ 戦略的学習力	✔ 言語スキル	✔ 協働性	✔ データサイエンス	✔ クリエイティビティ	未来志向			
				✔ 可能性発見	✔ 自己修正	✔ 双方向コミュニケーション	✔ ソーシャルリティ	✔ 批判的思考	✔ 論理的表現力	他者尊重			
				✔ パーソナライズな学び	✔ レジリエンス	✔ 感情のコントロール	✔ 教科と社会を紐づける力	✔ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)									
1 学期	・アンサンブルを楽しもう ・	・曲にふさわしい歌唱歌唱表現を創意工夫する曲想、音楽の構造、歌詞の内容、曲の背景曲種に応じた発声 ・音色や響き、言葉の特性、曲種に応じた発声		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン				
					音楽と映像、聴覚と視覚を結びつけた表現を鑑賞し、自身の感覚を振り返ったり、表現の中の音楽の役割や考える								
2 学期	・日本や世界の音楽、音階や言葉の特徴 ・	・(日本や世界の音楽)音楽の特徴や多様性、背景となる文化や歴史、社会における意味 ・役割(音階や言葉の特徴)特徴、音のつながり方の特徴、音の選択と組み合わせ		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表				
					即興的に、音楽に反応し、表現することで、その音楽を発する他者や、音楽そのものの繋がりをより感じようとする 歌詞、リズムや抑揚に目を向ける		アンサンブルの中で、自身の役割を見出し、音楽全体の姿を変えていく力をもっていることを実感する						
3 学期	・曲想を生かして表情豊かに歌おう、合唱しよう	・パートの役割や旋律の理解、曲の雰囲気、響きや美しさ、曲に込められた思い		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする				
					音楽や楽器の響きを自身の心と身体によく取り入れる態度を持ち、自分の身体の動きや声と音楽をよく協調させたり、同調させたりできるようになる		音楽と同調し、協調する自分自身が、音楽のどのような要素と繋がっているのかを分析し、また、どのような要素を捉えたり、表現したりすることの楽しさや困難さを把握するようになる		実技発表の中で、自身のことや、他者のことを、評価することができるようになる				
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act				
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(30%) ●授業提出物(30%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動およびGWの貢献度(40%)		<教材> 音楽ドリル 授業プリント iPad <ICT> Garage Band <備考> 必要に応じてWeb動画等を活用する				
歌唱や器楽、鑑賞をとおして、音楽や芸術と、生活などの人の営みに興味、関心をもち、自らのテーマを探す。		歌唱や器楽課題の理解に既存の動画を利用したり、身体表現を用いたり、他者の表現理解をする。自身の表現の確立につなげる。		思考力・判断力・表現力									
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度									

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	川島					
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年			美術		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
					目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機						
時間数			使用教科書		☐	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエ ンス	☒	クリエイティ ビティ	未来 志向
1時間／週			日文		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュ ニケーション	☐	ソーシャルティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者 尊重
					☐	パーソナライ ズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情の コントロール	☒	教科と社会を 紐づける力	☒	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)													
1 学期	・名画大喜利 ・見えないものを見る「切手」 「ワンセンテンス」	・物理的な余白や関係性の中に見える余白を無ではなく 「有」と捉えることができる ・表現することで他者を笑顔にする喜びを知る		社会・世界の 視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン								
					抽象化が世界でどう活用されている のか、文化や人種を超えた視点でそ の可能性について視点をもつことが できる。		具体的な日常の事象もしくは実社会 の問題に対し、抽象的な視点を用い て解決するための手段・方法を試行 錯誤できる。		実社会において、余白が笑顔を生む アイデアを提案、対話し実現に向け て行動できる。フィードバックを元により 良い在り方について試行錯誤でき る。								
2 学期	・レタリング ・透視図法	・コンセプトに沿った文字を表現する ・透視図法(1点、2点、3点)について基本的な技法を理 解する ・透視図法を使った作品を鑑賞し合い、抽象から想像する ことを楽しむことができる		他者・地域の 視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表								
					身の回りの余白がもつ役割について 観察し、感じようとする。		自分とは違う他者の視点の理解に努 め、学び方に向き合う姿勢が見られ る。また、それらを自己評価すること ができる。										
3 学期	・ZINEづくり	・限られたページの中で絵と文字で物語を表現できる ・正しく伝わることも観察してもら、想像してもらったこ の面白みを感じ試すことができる		個人的 視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする								
					余白がもつ名称、分類、感じ方・与 える印象の例などを学ぶ。		余白について、自分の観察眼を用い て、自分が惹かれるものを他者に伝 えることができる。		学習成果をプレゼンテーションおよび 相互評価することができる。								
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart				創造的な活動およびアウトプットの例 Hands				知識・技能		●作品 ●コンセプト ●問いへの向き合い かた ●プレゼンテーション		●主体的に取り組む態 度 ●仲間に還元しようと する アプローチのありか た ●相互評価		【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・動画資料 【ICT】 ・iPadアプリ 【備考】			
<見えないものを、見る>				個人またはグループで実践(制作活動)を伴った試行錯誤をまとめ、プレゼンする。				思考力・判断力・ 表現力									
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head				・Padlet(進捗共有、作品共有) ・クラスルーム(予定の確認、課題共有)				主体的に学習に 取り組む態度									

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	吉田未央					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年		[中学]保健体育		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週				☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・アルティメット ・タグラグビー	・基本的な知識、技能を身につける。また、ゲームの中で積極的に動く力を身につける。 ・仲間と支え合う場面を設けてコミュニケーション能力の育成を図るほか、競技を通して、公平性、尊重性を学ぶ。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
	プロや大学生などのプレーの様子を動画等で学び、自分のプレーに生かすことができる。				スポーツにまつわる様々な課題について、興味や問いを持ち提案することができる。											
2 学期	・剣道 ・バドミントン	・それぞれの競技の基本的な技能を身につける。また、技能習得にむけて練習方法を工夫する力を身につける。 ・剣道の基本的な技術と礼儀作法につあて学ぶ。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
	友達のプレーから良い点・悪い点を見つけ、自分のプレーに生かすことができる。				自他のプレーについて課題を見つけ、技能を高めるためのアドバイスをすることができる。											
3 学期	・陸上(長距離・高跳び)	・基本的な知識、技能を身につける。また、自身の記録更新に向けてや技能習得に向けて練習方法を工夫する力を身につける。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本ルール・技術について、教科書から学ぶことができる。		自分のプレーについて課題を見つけ、技能を高めることができる。		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●技能・筆記テスト(50%) ●授業参加度(20%) アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。		●アウトプット型テスト(30%)		【教具】 ・体育用具 【ICT】 ・iPad ・ロイロノート ・クラスルーム 【備考】							
・生涯を通してスポーツとどう関わることができるか ・自他の課題解決のためにどう行動するか		試合や記録会で学んだ基礎技能を実践で使うことができる。														
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノートなど		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	伊藤、燧					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年		[中学]保健体育		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		なし		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・剣道 ・体力テスト	・剣道の基本的な技術と礼儀作法について学ぶ。 ・今後の体育活動で身体機能を向上させるための目標を作り、現在の自身の体力レベルを認識する。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					プロや大学生などのプレーの様子を動画等で学び、自分のプレーに生かすことができる。		スポーツにまつわる様々な課題について、興味や問いを持ち提案することができる。									
2 学期	・バスケットボール ・器械運動	・バスケットボールの基本的な知識、技能を身に付ける。 ・それぞれの技の習得や体の動かし方を理解する。また、仲間と教え合う場面を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					友達のプレーから良い点・悪い点を見つけ、自分のプレーに生かすことができる。		自他のプレーについて課題を見つけ、技能を高めるためのアドバイスをすることができる。									
3 学期	・卓球	・卓球の基本的な技能を身に付ける。また、技能習得に向けて、練習方法を工夫する力を身に付ける。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本ルール・技術について、教科書から学ぶことができる。		自分のプレーについて課題を見つけ、技能を高めることができる。		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。							
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●技能・筆記テスト(50%) ●授業参加度(20%) アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。		●アウトプット型テスト(30%)		【教具】 ・体育用具 【ICT】 ・iPad ・ロイロノート ・クラスルーム 【備考】							
・生涯を通してスポーツとどう関わることができるか ・自他の課題解決のためにどう行動するか		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。														
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノートなど		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	露無					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学2年		家庭科		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		開隆堂 家庭分野		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☐	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
				☐	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・自分の成長と家族、家庭生活 ・幼児の生活と家族	・自分の成長と、家族や地域の人びとのかかわり ・家族・家庭の機能、家庭内・家庭外での活動 ・家族それぞれの立場や役割、家族で協力することの重要性 ・幼児の心身の発達、家族や周囲のおとなの役割 ・幼児にとっての遊びの意義と遊びの環境		社会・世界の視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					ケーススタディを用いた学習を行うことにより、他者や家族とのかかわり方について考えることができる。		家庭生活と食生活に関する社会問題を取り上げたり、ケーススタディを用いた学習を行うことにより、現代社会の問題に自ら気づくことができる。									
2 学期	・家庭生活と地域のかかわり ・持続可能な家庭生活 ・被服実習 ・食事の役割と食習慣	・地域との相互のかかわりと家庭生活 ・多様な人びとが地域で暮らせるための工夫 ・高齢者の地域の活動、必要な介助介護 ・手縫いの基礎、食事に用いる小物作成 ・食事の役割の理解、健康によい食生活とは		他者・地域の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					被服実習を行うことで、基本的な手縫いの技術を学ぶ。 食事に用いる小物を作成することで、食生活の大切さを考える。		C1の実施により、学んだ内容や自分の考えを、グループ内およびクラス内で共有する。より深い理解を得るだけでなく、他者の意見を知る。									
3 学期	・中学生に必要な栄養を満たす食事	・中学生の身体的特徴と必要な栄養素 ・栄養的特質と食品群の分類		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					教科書の内容に準じた穴埋め式ワークシートを用いて学ぶことで、体系的に家庭生活や食生活について理解する。		自身の生活を振り返る内容の個人ワークを行うことで、学習内容を自分事としてとらえ、学びに自ら向き合う。また、自分の意見や考えに対して自己評価ができる。		グループ内で話し合った内容、個人ワークで考えた内容をクラス内で発表する。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●ワークシート、振り返りシートなどの提出物 ●被服実習の制作作品		●創作活動 ●発表および共有 ●活動への参加状況、貢献度 ●学習の進捗状況		【教材】 ・ハンドアウト資料(ワークシート、振り返りシートなど)、教科書 【ICT】 ・WEB動画、教材サイト 【備考】 必要に応じて補助資料を配布、供覧							
・家族や地域の多様な人びとを理解し関わっていくにはどうしたらいいか。 ・自分自身の食習慣にどのように生かしたらいいか。		・家族や多様な人びとに対し、状況をふまえながら相手の立場に立って考えることができる。 ・必要な栄養バランスについて考え、適切な食事を選択することができる。											思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(配布資料の配信・準備物の連絡など) ・ハンドアウト資料(ワークシート、振り返りシートなど)		主体的に学習に取り組む態度												